



福徳天長天國柱編

福井
山崎屋清板

~13
2378
299



遠野
2378
299

万亭應賀作

天保乙巳孟春發兌

福徳 天長 大國 柱

二編 全六冊 上之卷

國貞改
一陽齋 豊國画



浅草福井町
山崎屋清七梓

叙

夫皇宗皇帝へんご上氣のゆへ月宮へ登りぬい浦
島太郎へ下氣のゆへ龍宮へ下りては作者も其
上氣をまゝ似て雲の上人との云をたくしその下氣を
ゆへて地獄の釜の版木あもと中ぶらりてん世渡り
うらひまゝなる天上長巻をけ春ち大地の底へせり下
たる大機関雜作向の積遠ひの由見物君方様やうふ
ゆへえの力と添らまて續繕ひぬへくと爾云

天保十六乙巳年孟春新板

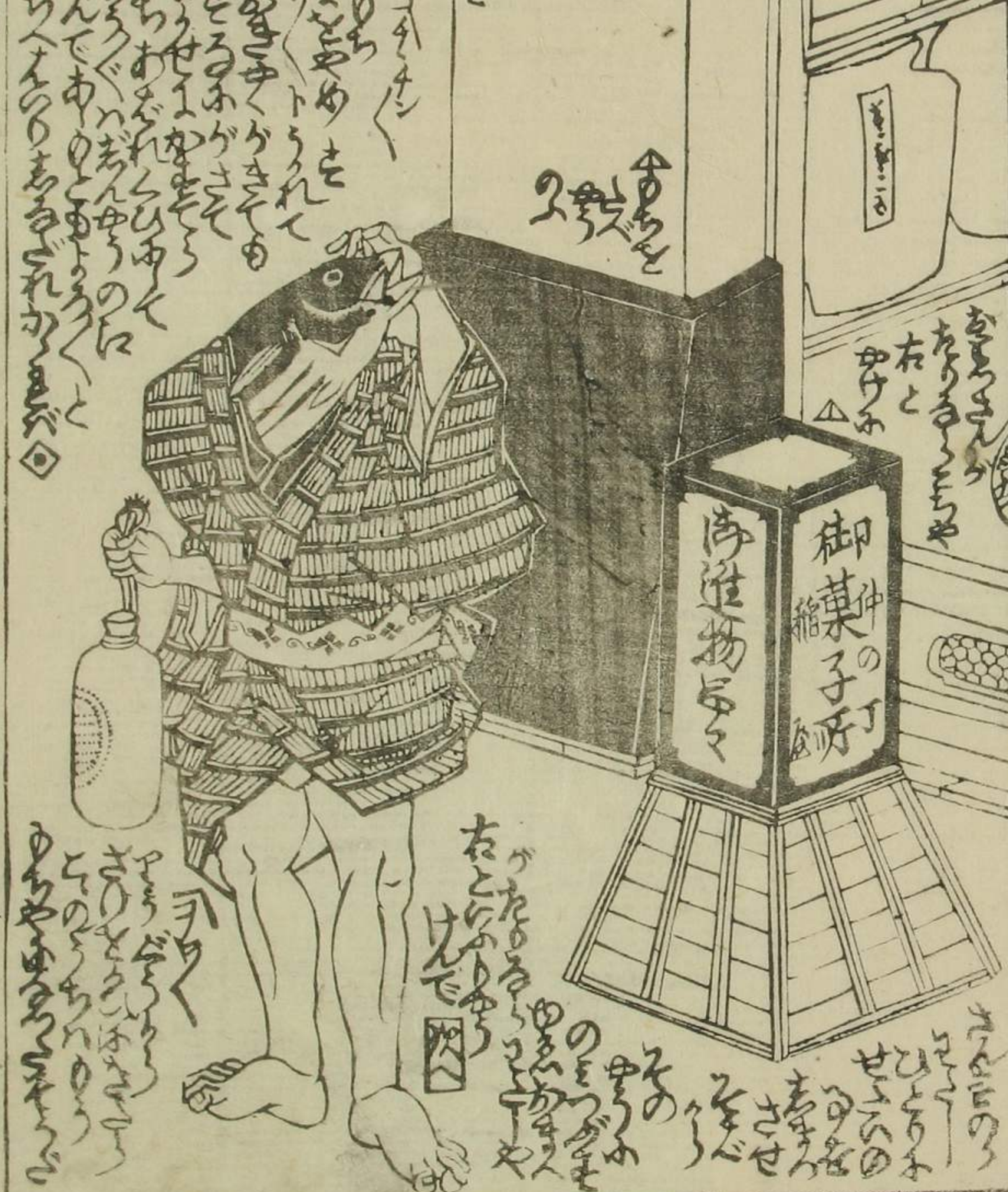
二十五歳の裁作

万亭やう賀述





江戸のまちで
 さげのちんぷ
 けりおんな
 むんまきめて
 むけんをまねも
 さげの市へかけ
 むんまきめて
 むけんをまねも
 さげの市へかけ
 むんまきめて
 むけんをまねも
 さげの市へかけ



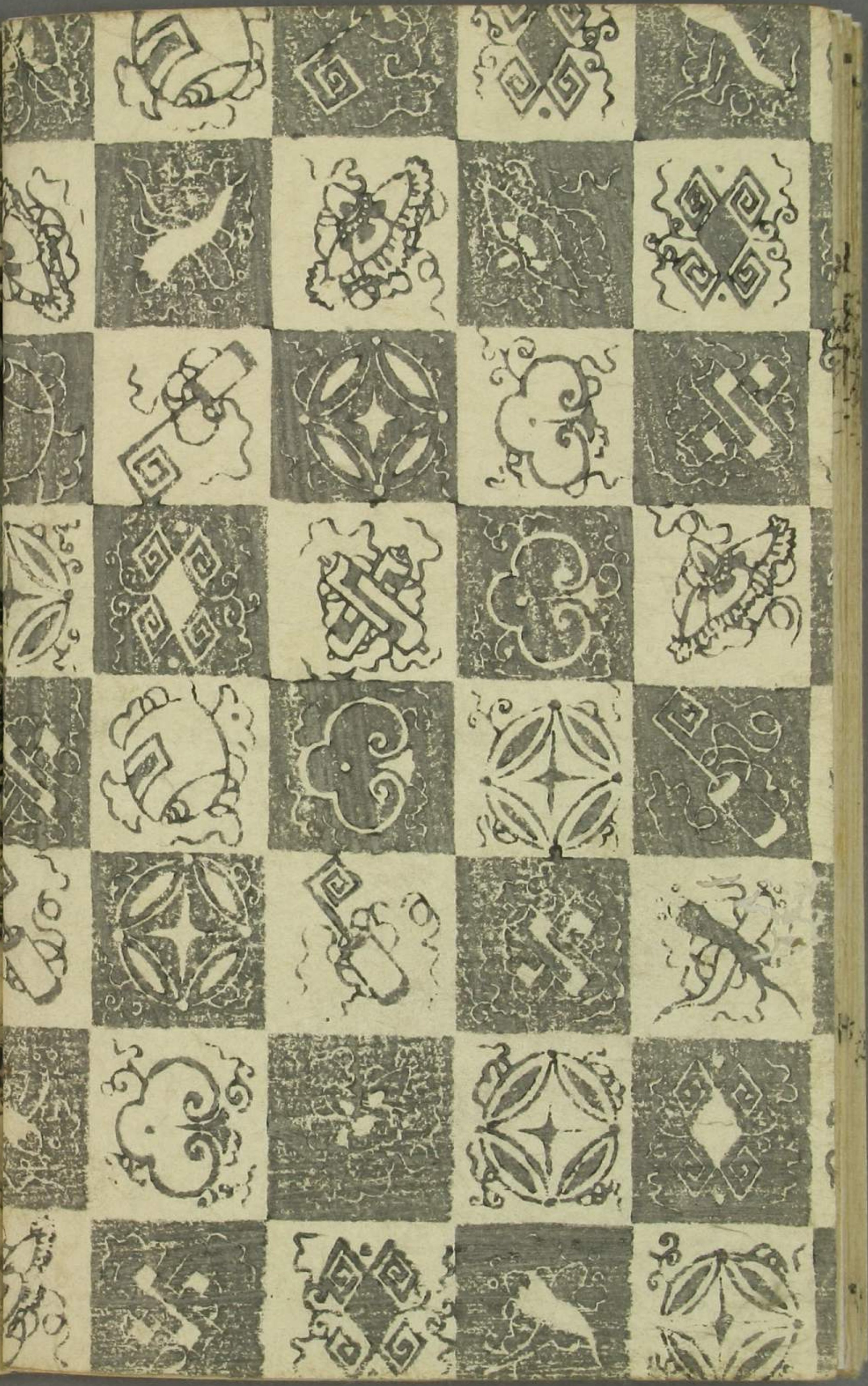
右と
 左と
 右と
 左と

大相門一

江戸のまちで
 さげのちんぷ
 けりおんな
 むんまきめて
 むけんをまねも
 さげの市へかけ
 むんまきめて
 むけんをまねも
 さげの市へかけ



うらめ
 うらめ
 うらめ



つらけあつて
すうけいあつた
れいすうあつた
てあつたあつた
のあつたあつた
あつたあつた
あつたあつた
あつたあつた
あつたあつた



かたの
せつと
いふの
ひふの
みふの
ひふの
あつたあつた
あつたあつた

あつたあつた
あつたあつた
あつたあつた
あつたあつた

あつたあつた
あつたあつた
あつたあつた
あつたあつた

あつたあつた
あつたあつた
あつたあつた
あつたあつた
あつたあつた
あつたあつた
あつたあつた
あつたあつた
あつたあつた
あつたあつた



あつたあつた
あつたあつた
あつたあつた
あつたあつた
あつたあつた
あつたあつた
あつたあつた
あつたあつた

あつたあつた
あつたあつた
あつたあつた
あつたあつた
あつたあつた
あつたあつた
あつたあつた
あつたあつた

國貞改
一陽齋豊國画

大保
乙巳春
新板



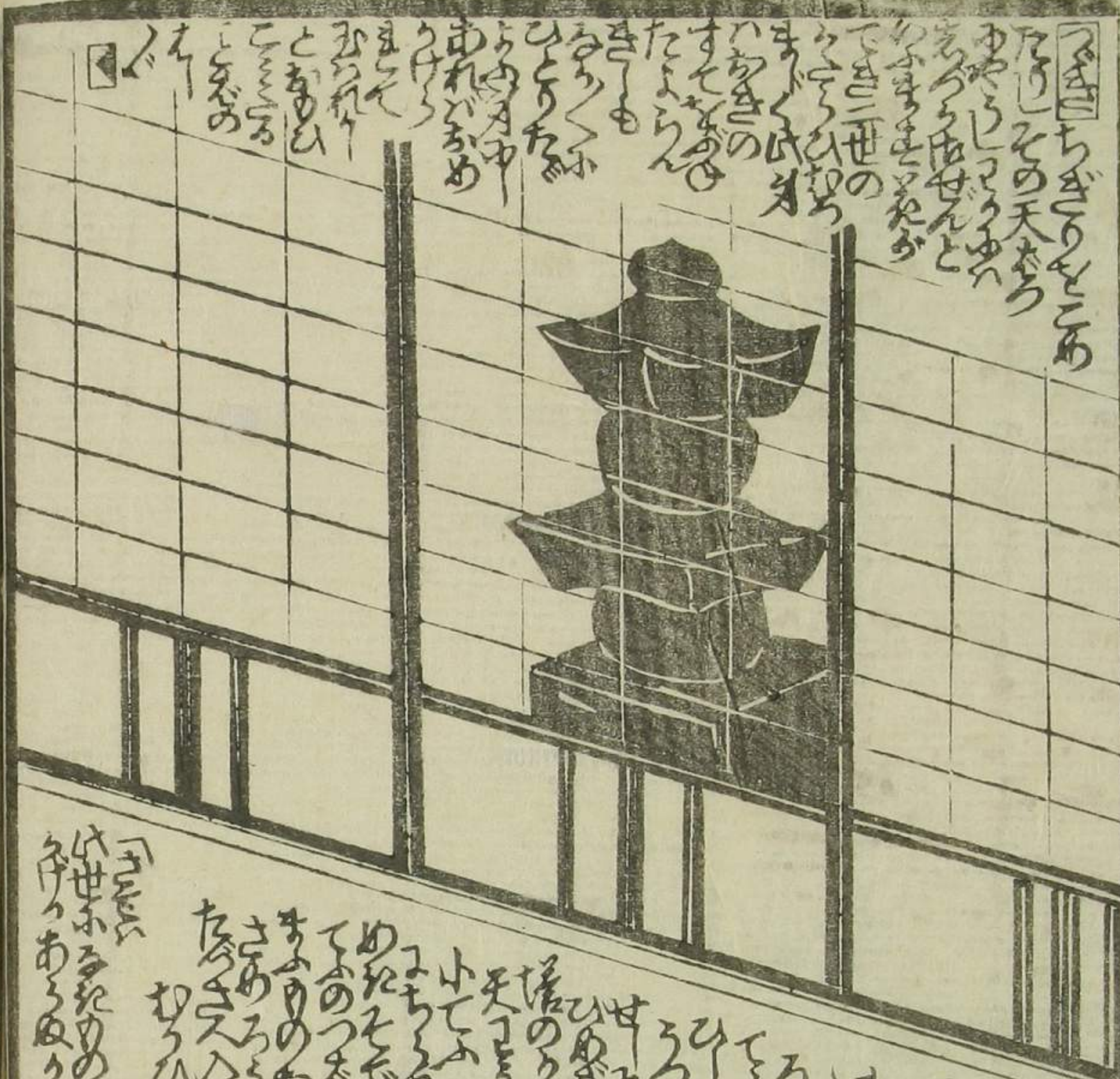


ひままと
ついであつ
ひめがまひの
縁のねむさひ
まゝてわられぬ
こゝろをさるれぬ
女子のこゝろ
いづれとせむし
りて縁のついで
あつ

ひままうらうの
おふたごころを
はんとのちやう
あつてさるれぬ
こゝろをさるれぬ
女子のこゝろ
いづれとせむし
りて縁のついで
あつ

おや
の
よ

ひめ
の
こゝろ
あつて
さるれぬ
こゝろを
さるれぬ
女子の
こゝろ
いづれと
せむし
りて縁の
ついで
あつ



ちびのこ
その天
あつてさるれぬ
こゝろを
さるれぬ
女子の
こゝろ
いづれと
せむし
りて縁の
ついで
あつ

ひまま
ついで
あつ
ひめ
の
こゝろ
あつて
さるれぬ
こゝろを
さるれぬ
女子の
こゝろ
いづれと
せむし
りて縁の
ついで
あつ



大國林三